2022. 10～12 No.62

かなしん景況レポート

ヴェルニー公園・よこすか近代遺産ミュージアム ティボディエ邸　　株式会社 弘文社 提供

目　次

景気動向	地域経済(全業種総合)	2
	業種別経済	6
	特別調査	18
お客様景況インタビュー	株式会社 ダイイチ　「～働く人たちをスター選手に～」	19
トピックス	「神奈川県の景況感について」	3
	「2022年度上半期(4～9月)の貿易統計速報」	9

調査概要

調査時期	令和4年11月15日から令和4年12月5日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(D.I.)を中心にして分析を行いました。
回答率	調査先数　当金庫取引先　500先　　回答先数　483先　　回答率　96.6%

全業種総合天気図

	2022年1～3月	2022年4～6月	2022年7～9月	2022年10～12月	2023年1～3月 来期予想
全業種総合					
製造業					
卸売業					
小売業					
サービス業					
建設業					
不動産業					

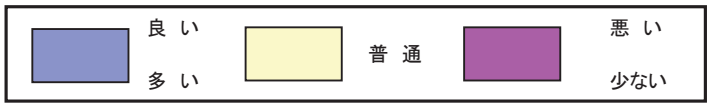
低調 ←――― 天気図 ―――→ 好調

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。

かながわ信用金庫 かなしん

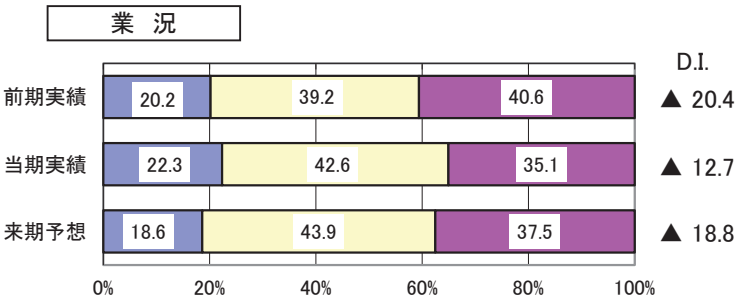
全業種総合　～業況は不動産業以外は改善、卸売業は大幅改善でプラス水準に～

当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

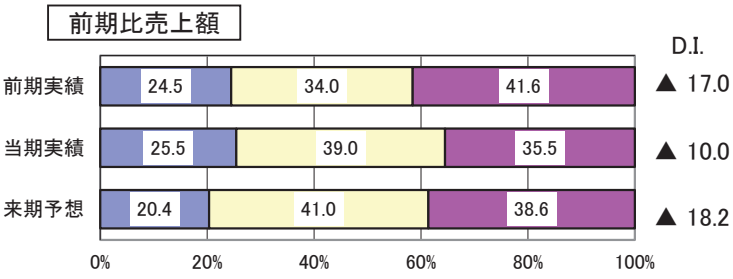
当期 → 予想



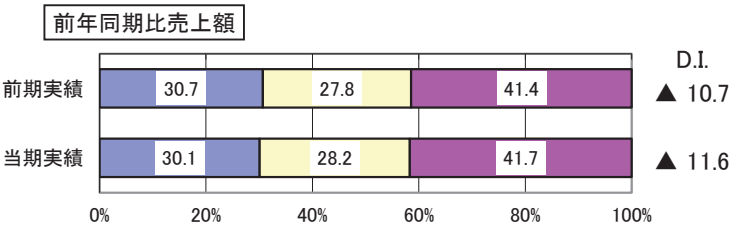
当期の業況判断D.I.は▲12.7と、対前期比7.7ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し（▲15.0）を2.3ポイント上回りました。業種別に見ると不動産業を除く5業種で改善となり、卸売業は全業種で唯一プラス水準に転じました。全業種の来期予想D.I.は▲18.8と、6.1ポイントの低下となる見込みです。

2. 売上額

当期 → 予想

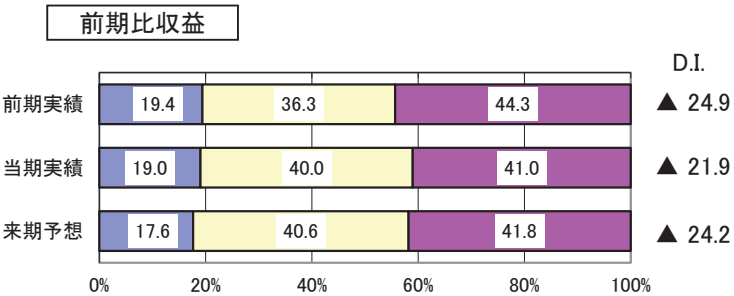


当期の売上額判断D.I.は▲10.0と、対前期比7.0ポイントの改善となりました。業種別に見ると不動産業を除く5業種で改善となり、業況同様、卸売業は全業種で唯一プラス水準に転じました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲11.6と、7～9月期から0.9ポイントの小幅低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲18.2と、8.2ポイントの低下となる見込みです。

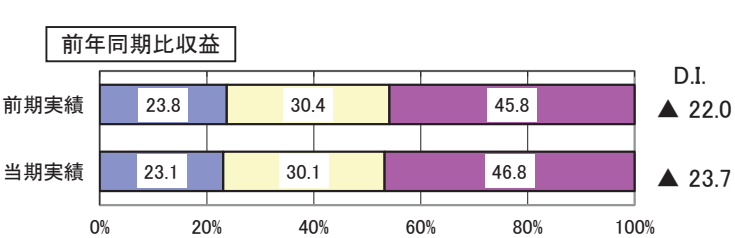


3. 収　益

当期 → 予想



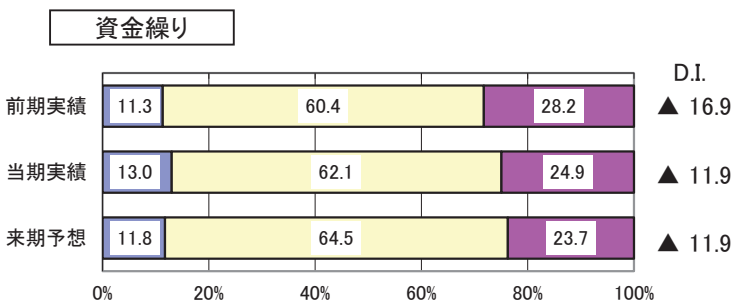
当期の収益判断D.I.は▲21.9と、対前期比3.0ポイントの改善となりました。業種別に見ると、製造業、卸売業、小売業は改善となり、他の3業種は低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲23.7と、7～9月期から1.7ポイントの小幅低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲24.2と、2.3ポイントの低下となる見込みです。



4. 資金繰り

当期 → 予想

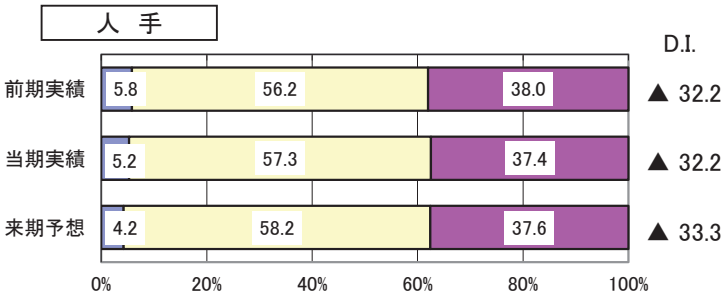
当期の資金繰り判断D.I.は▲11.9と、対前期比5.0ポイントの改善となりました。業種別に見ると、不動産業を除く5業種で改善となりました。不動産業は低下となりましたが、前期に引き続きプラス水準を維持しました。全業種の来期予想D.I.は、▲11.9と横ばいとなる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲32.2と、前期実績から横ばいとなりました。業種別に見ると、サービス業、建設業は低下となり、他の4業種は改善となりました。建設業は前期に引き続き最も厳しい水準となりました。全業種の来期予想D.I.は▲33.3と、人手不足感は小幅に強まり厳しい水準が続く見込みです。

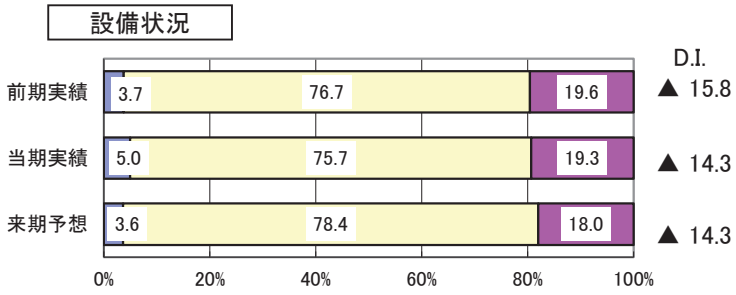


※雇用判断D.I.（過剰－不足）　マイナスは人手不足

6. 設備状況

当期 → 予想

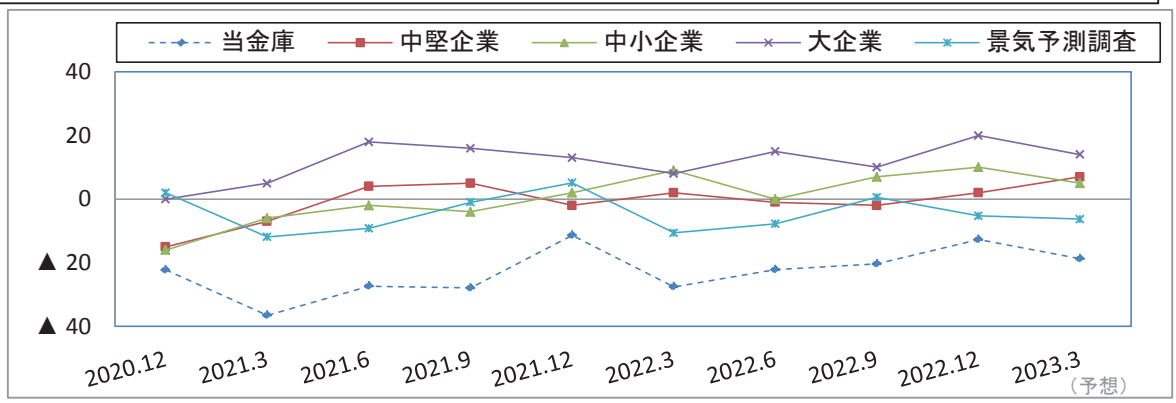
当期の設備状況判断D.I.は▲14.3と、対前期比1.5ポイントの小幅改善となりました。全業種の来期予想D.I.は▲14.3と、不足感は横ばいとなる見込みです。



神奈川県の景況感について

日本銀行横浜支店が発表した神奈川県金融経済概況（2022年11月分）では、「新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直している」と前回判断より引き上げられました。項目別では＜生産＞、＜個人消費＞、＜貸出＞が引き上げられ、その他の判断は据え置かれました。また、財務省関東財務局横浜財務事務所が発表している神奈川県の経済情勢報告（令和4年11月判断）の総括判断は、「県内経済は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している」と前回判断より引き上げられました。項目別では＜個人消費＞、＜生産活動＞、＜企業収益＞、＜企業の景況感＞が引き上げられ、その他の判断は据え置かれました。金融経済概況、経済情勢報告ともに引き上げられた＜生産活動＞では、輸送機械、生産用機械が増加しており、持ち直しの動きがみられています。また、＜個人消費＞では百貨店販売額や宿泊施設の客室稼働率に持ち直しの動きがみられています。このように神奈川県の景況感は、持ち直しつつありますが、先行きについては、海外景気の下振れや物価上昇、供給面での制約等に注意が必要です。

日銀短観（企業規模別）、法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)、当金庫業況DIの推移

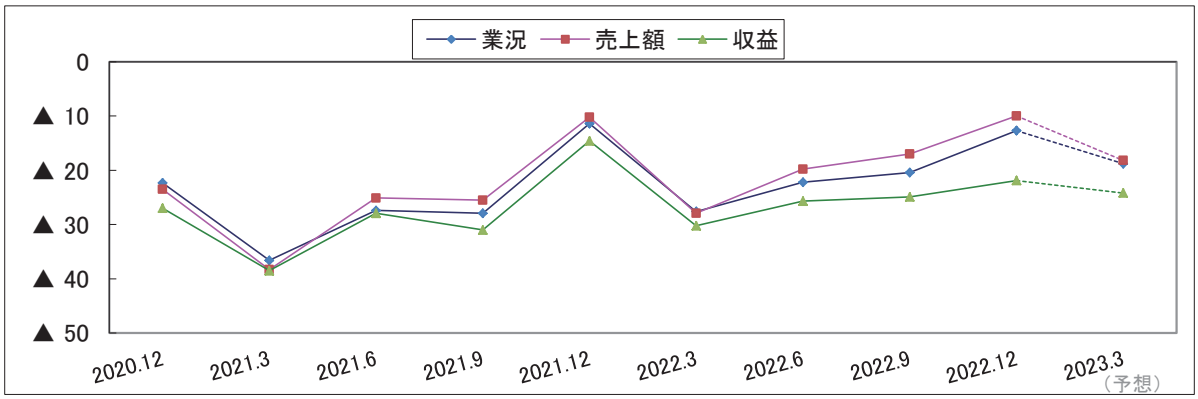


「日銀短観（神奈川県分）」（2022年12月分）における大企業の業況判断D.I.は、20となり前期から、6ポイントの改善となりましたが、来期は低下となる見込みです。中堅企業のD.I.は、2と、前期から4ポイントの改善となりプラス水準に転じ、来期も改善となる見込みです。中小企業のD.I.は、10と前期から3ポイントの改善となりましたが、来期は低下となる見込みです。業種別でみると製造業では、電気機械が改善しており、非製造業では建設、不動産・物品賃貸、運輸・郵便、情報通信が改善となりました。

関東財務局横浜財務事務所発表の「法人企業景気予測調査」では、全規模・全産業ベースで、▲5.3と前期から5.9ポイントの低下となり、来期もさらに低下となる見込みです。大企業・中堅企業は、前期からそれぞれ低下となり、中小企業は改善となりました。先行きについては、大企業は改善となる見込みで、中堅企業は低下、中小企業は横ばいとなる見込みです。

「当金庫景気動向調査」では、前回調査時業況判断D.I.▲20.4から7.7ポイント改善し、▲12.7なりましたが、来期は再び低下となる見込みです。振れ幅に違いはあるものの、日銀短観や法人企業景気予測調査と近い推移を示しています。

業況・売上額・収益D.I.の推移（全業種総合：当金庫）

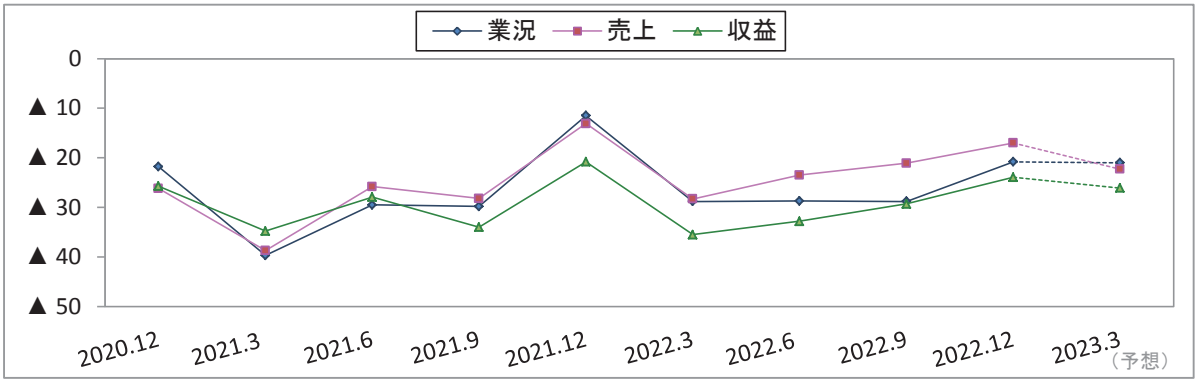


2022年10～12月期の業況判断D.I.は▲12.7と、対前期比7.7ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し（▲15.0）を2.3ポイント上回りました。売上額判断D.I.は▲10.0と、対前期比7.0ポイントの改善、収益判断D.I.は▲21.9と、対前期比3.0ポイントの改善となりました。

「水産物の水揚不漁と価格高騰により、先行きが見通しにくい状況である」（卸売業）、「諸商品の値上げ要請が続いている」（小売業）、「資材等の高騰も厳しいが、人手不足が問題であり、人手不足に便乗する賃金値上も出てきている」（建設業）等、物価の高騰による影響を不安視するコメントや、人手不足が厳しいというコメントが多く寄せられました。

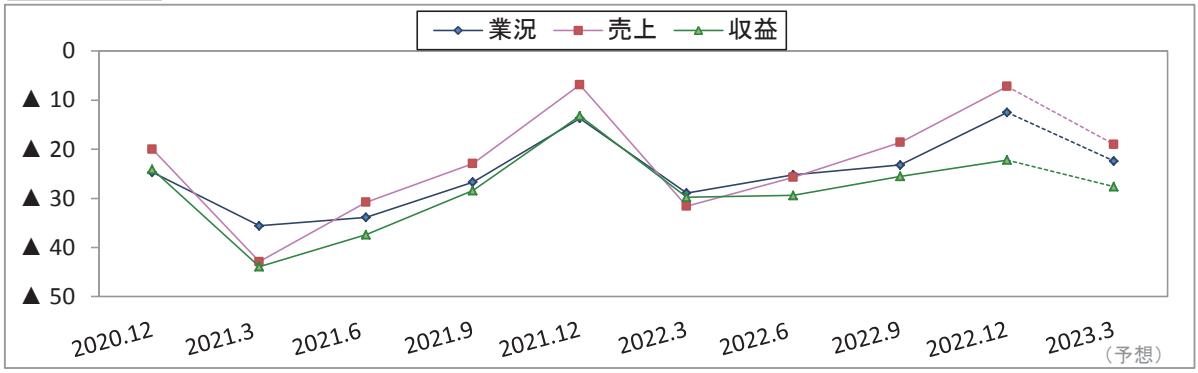
地区別の業況・売上・収益の推移（当金庫）

横須賀地区



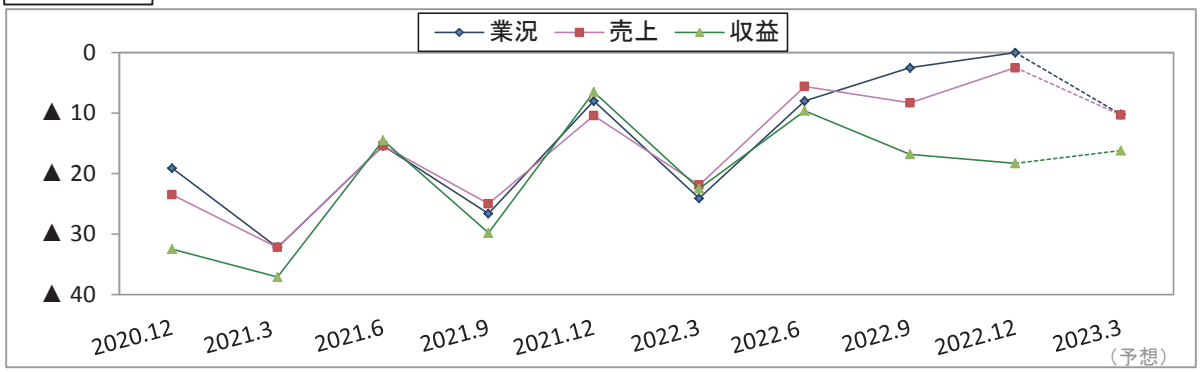
横須賀地区の2022年10～12月期の業況判断D.I.は▲20.8と、対前期比8.0ポイントの改善となり、売上、収益についても改善となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲21.0と0.2ポイント小幅低下する見込みで、売上、収益についても低下を見込んでいます。

横浜地区



横浜地区の2022年10～12月期の業況判断D.I.は▲12.5と、対前期比10.7ポイントの2桁改善となり、売上、収益についても改善となりました。来期予想についても、業況判断D.I.は▲22.4と、9.9ポイント低下し、売上、収益についても低下を見込んでいます。

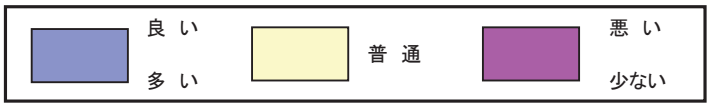
藤沢地区



藤沢地区の2022年10～12月期の業況判断D.I.は0.0と、対前期比2.5ポイントの改善となり、売上についても改善となりましたが、収益は低下となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲10.2と、10.2ポイント低下し、収益は改善を見込んでいますが、売上については低下を見込んでいます。

製 造 業 ～業況は2桁改善も、来期は再び低下の見込み～

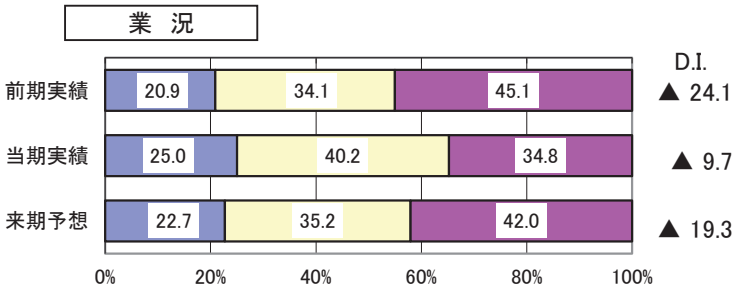
当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

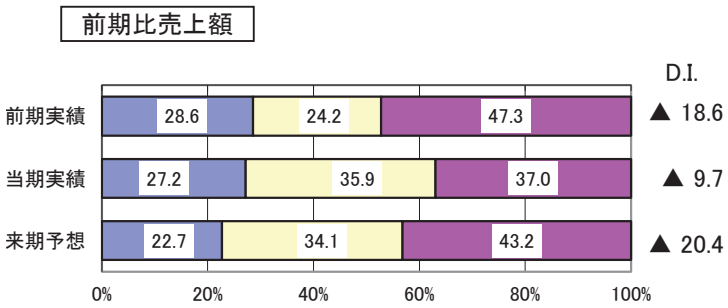
当期の業況判断D.I.は▲9.7と、対前期比14.4ポイントの2桁改善となり、前回調査時における今期見通し（▲9.8）を0.1ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は▲19.3と、9.6ポイントの低下となる見込みです。

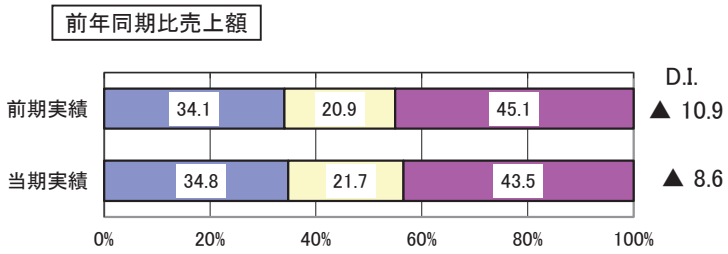


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲9.7と、対前期比8.9ポイントの改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲8.6と、7～9月期から2.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲20.4と、10.7ポイントの2桁低下となる見込みです。

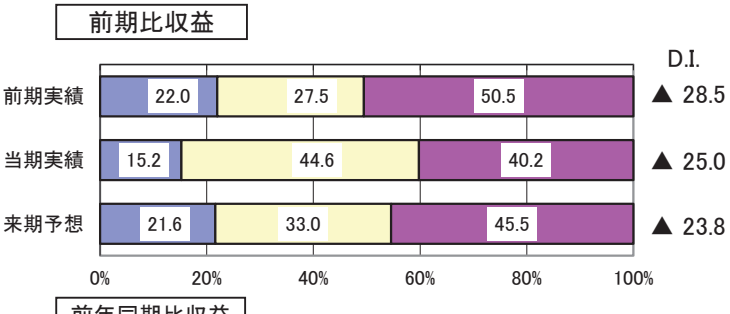


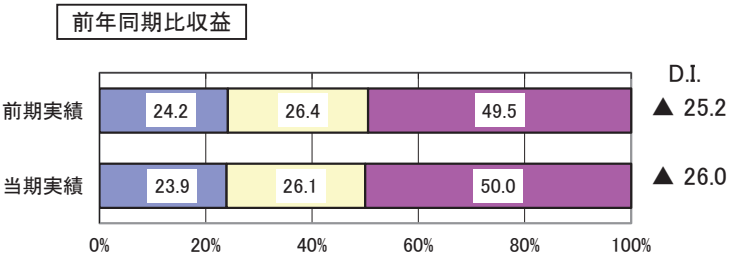


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲25.0と、対前期比3.5ポイントの改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲26.0と、7～9月期から0.8ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲23.8と、1.2ポイントの小幅改善となる見込みです。

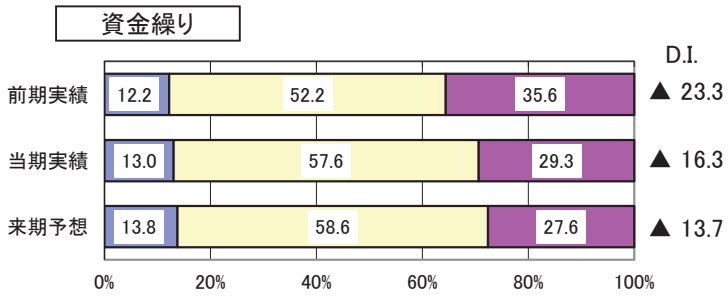




4. 資金繰り

当期 → 予想

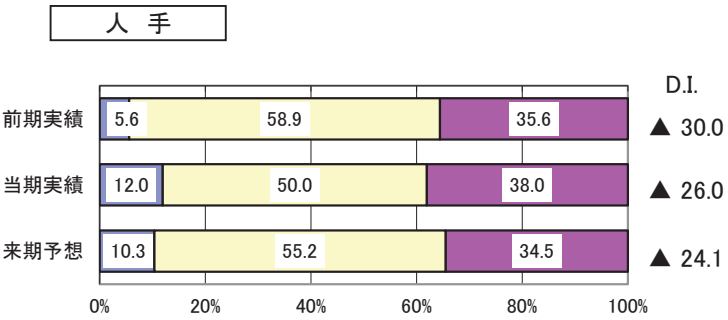
当期の資金繰り判断D.I.は▲16.3と、対前期比7.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.7と、2.6ポイントの小幅改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

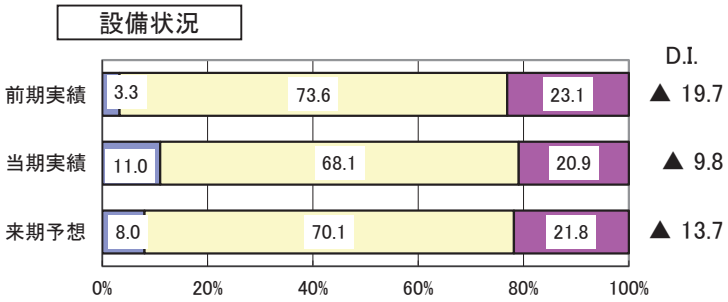
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲26.0と、対前期比4.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲24.1と、人手不足感は小幅に緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲9.8と、対前期比9.9ポイントの改善となり、最も改善幅が大きな業種となりました。来期予想については、D.I.は▲13.7と、再び不足感は強まる見込みです。

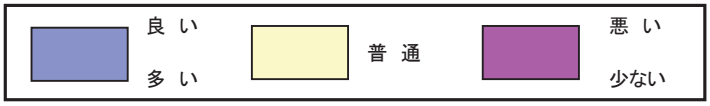


調 査 先 の コ メ ン ト

○景気の回復を実感しているが、海外を含めた不安定な状況に不安を感じている。
○受注減の傾向が10月以降にみられ、材料の高騰、外注費の値上げにより経営悪化の一途をたどる様相を示している。
○鋼材価格上昇が一服し、資材の一部に先安観もあるが、仕入価格上昇分の転嫁が難しい。
○業況（景気）が相変わらず悪い。
○大型案件の建設工事が終わり、新たにお客様を訪問し営業活動している。売上は減少しているが、収支は今期も安定している。
○建機業界では、排ガス規制によるエンジンの供給不足で生産計画が大幅に遅れている。当社の部品の納入計画にも大きな影響を受けており、解消に向かうのは来年以降の見通しである。
○大型の設備投資をスタートした。付随する設備もあるためコストはかかるが、10年、15年先を見据えた先行投資である。電気代、ガス代、工業化学薬品等が値上げされているが、いかに売価に転嫁できるかが勝負である。
○半導体不足は、少しずつ解消されているが、予想以上に長引く可能性もある。
○在庫が長期化しており見通しが悪い。景気は回復しているが、しばらくは見守る必要がある。
○エネルギー価格の高騰による更なる仕入品の上昇が予想され、先行きがとても不安な状況である。
○受注は取れていて、忙しいが利益がでない状況である。

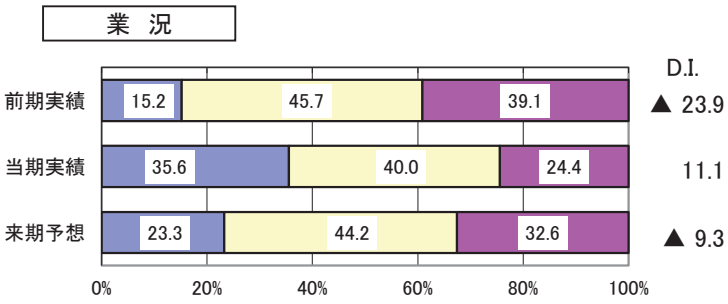
卸 売 業　～業況、売上、収益は、最も良い水準となるも、来期は大幅低下の見込み～

当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

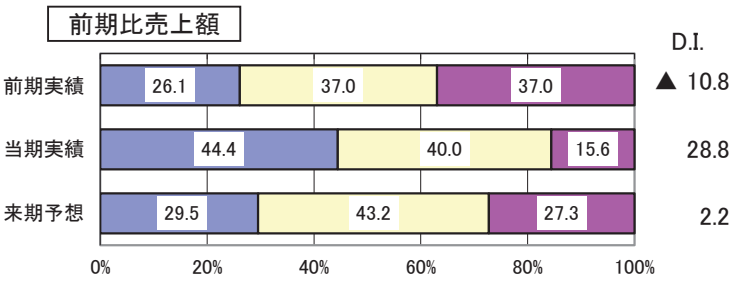
当期 → 予想

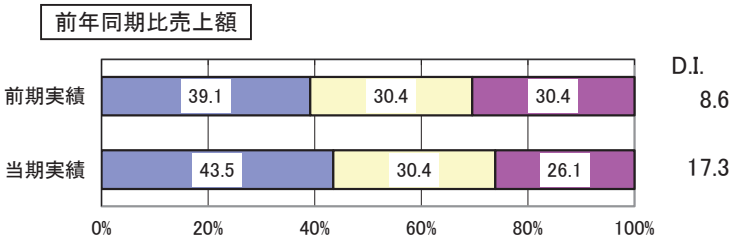


当期の業況判断D. I. は11. 1と、対前期比35. 0ポイントの大幅改善となり、最も改善幅が大きな業種となり、全業種で唯一プラス水準に転じました。前回調査時における今期見通し（▲25. 5）を36. 6ポイントと、大きく上回りました。来期予想については、D. I. は▲9. 3と、20. 4ポイントと大幅低下し、最も低下幅が大きな業種となる見込みです。

2. 売 上 額

当期 → 予想

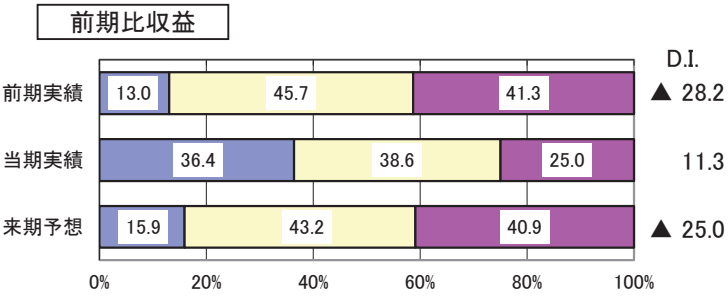


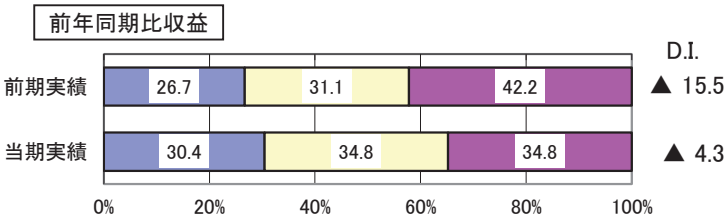


当期の売上額判断D. I. は28. 8と、対前期比39. 6ポイントの大幅改善となり、業況同様、最も改善幅が大きな業種となりました。対前年同期比の売上額判断D. I. は17. 3と、7～9月期から8. 7ポイントの上昇となり、引き続きプラス水準をとなりました。来期予想については、D. I. は2. 2と、26. 6ポイント大幅低下となりますが、プラス水準を維持する見込みです。

3. 収　益

当期 → 予想



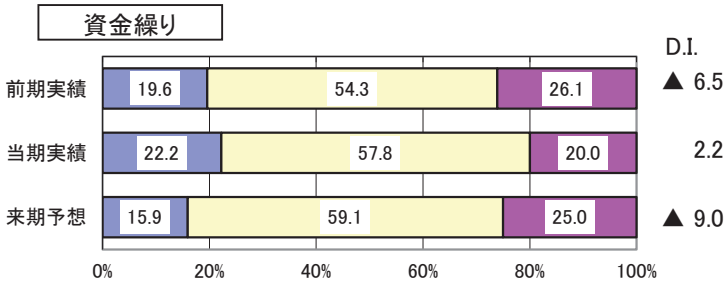


当期の収益判断D. I. は11. 3と、対前期比39. 5ポイントの大幅改善となり、業況、売上額同様改善幅が最も大きな業種となりました。対前年同期比の収益判断D. I. は▲4. 3と、7～9月期から11. 2ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D. I. は▲25. 0と、36. 3ポイントの大幅低下となり、最も低下幅が大きな業種となる見込みです。

4. 資金繰り

当期 → 予想

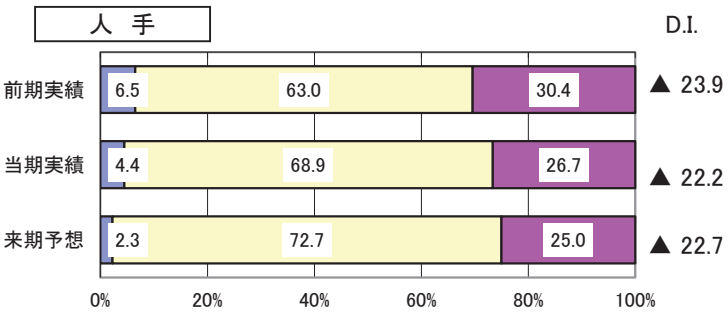
当期の資金繰り判断D.I.は2.2と、対前期比8.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲9.0と、11.2ポイントの2桁低下となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

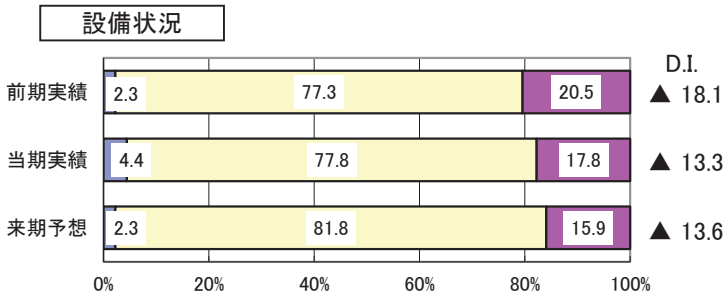
当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲22.2と、対前期比1.7ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲22.7と、人手不足感は小幅に強まる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲13.3と、対前期比4.8ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.6と、不足感は小幅に強まる見込みです。



調 査 先 の コ メ ン ト

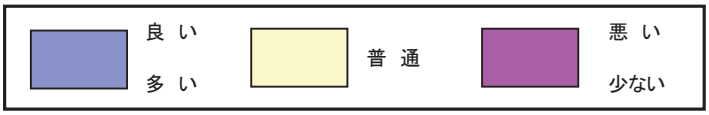
○仕入が度重なる値上げで販売価格も値上げせざるを得ない。価格はほぼ転嫁できているが、今後の見通しは分からない。
○水産物の水揚不漁と価格高騰により、先行きが見通しにくい状況である。
○顧客が固定されているため、顧客の景気動向に非常に影響を受けている。その要因として、ロシアのウクライナ侵攻や中国の経済、軍事行動に対する中国離れによるプラント輸出の減少があげられる。

2022年度上半期(4～9月)の貿易統計速報

財務省が10月20日に発表した貿易統計速報によると、輸出額から輸入額を差し引いた2022年度上半期の貿易収支は11兆74億円の赤字となり、資源高と円安が響き、赤字額は比較可能な1979年度以降の半期で最大になった。赤字額が大きい主な相手国は中国（2兆8359億円）、オーストラリア（5兆480億円）、アラブ首長国連邦（2兆8425億円）等であった。中国については感染対策のための都市封鎖や不動産不況のため輸出数量が減少したためで、オーストラリアや中東産油国については、液化天然ガスや原油価格の高騰と円安によるところが大きい。9月の貿易収支も2兆939億円の赤字となり、9月として最大の赤字額となった。当面は大幅な貿易赤字が続くと見込まれる。

小 売 業 ～最も厳しい水準の業種、来期も低下し厳しい業況続く見込み～

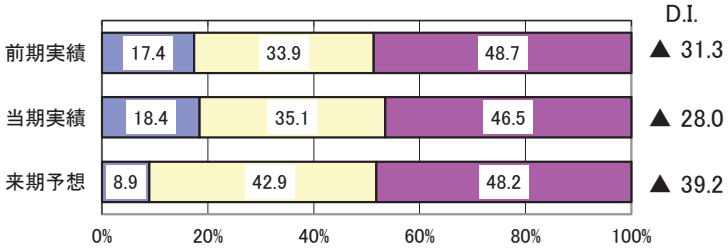
当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

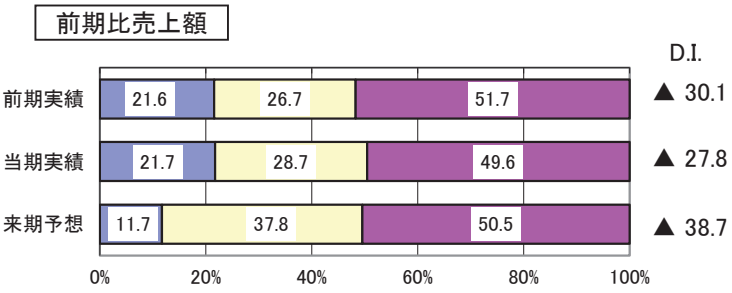
当期の業況判断D. I. は▲28. 0と、対前期比3. 3ポイントの改善となりましたが、前期に続き最も厳しい水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲15. 5）を12. 5ポイントと大きく下回りました。来期予想については、D. I. は▲39. 2と、11. 2ポイントの2桁低下となり、来期も最も厳しい水準の業種となる見込みです。

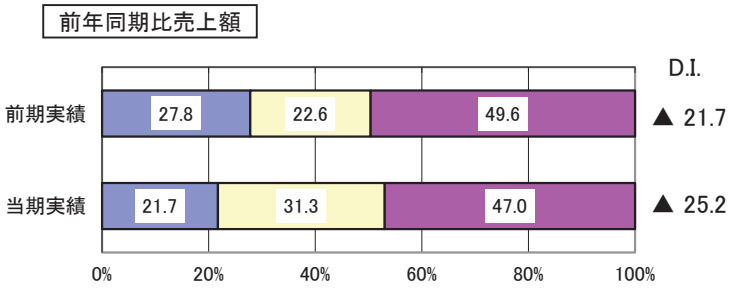


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D. I. は▲27. 8と、対前期比2. 3ポイントの改善となりましたが、業況同様、最も厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲25. 2と、7～9月期から3. 5ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲38. 7と、10. 9ポイントの2桁低下となり、業況同様、最も厳しい水準の業種となる見込みです。

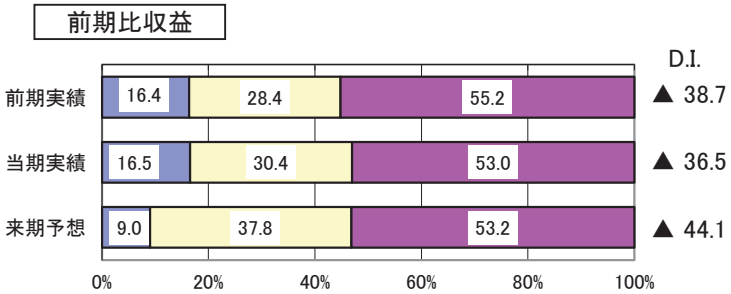


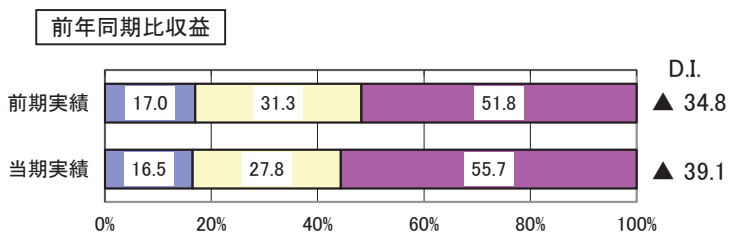


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D. I. は▲36. 5と、対前期比2. 2ポイントの改善となりましたが、業況、売上額同様、最も厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D. I. は▲39. 1と、7～9月期から4. 3ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲44. 1と、7. 6ポイントの低下となり、業況、売上額同様、最も厳しい水準の業種となる見込みです。

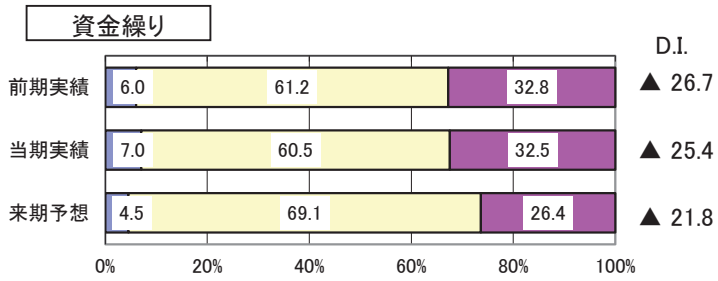




4. 資金繰り

当期 → 予想

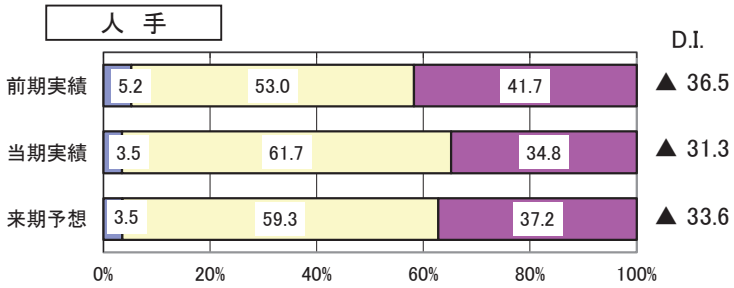
当期の資金繰り判断D.I.は▲25.4と、対前期比1.3ポイントの小幅改善となりましたが、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲21.8と、3.6ポイント改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

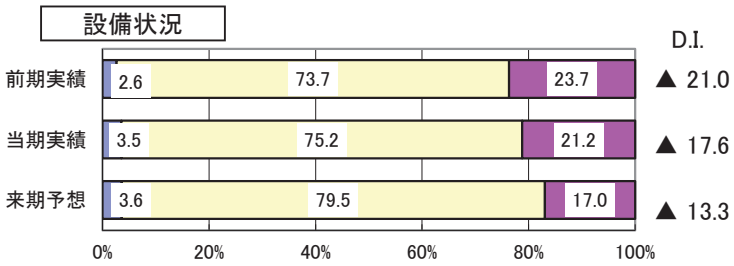
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲31.3と、対前期比5.2ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲33.6と、人手不足感は小幅に強まる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲17.6と、対前期比3.4ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.3と、不足感はやや緩和する見込みです。

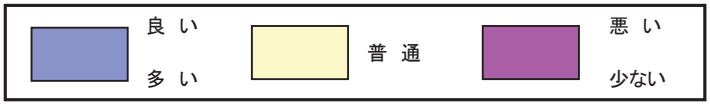


調 査 先 の コ メ ン ト

○仕入価格上昇分をどこまで売価に転嫁できるか手さぐり状態が続く。来年の夏物、秋冬物商品まで仕入価格上昇が予想され非常に難しい舵取りである。
○コロナ禍でお客さんの店離れが定着し、売上が望めない状況である。
○諸商品の値上げ要請が続いている。
○プレミアム商品券の利用で当社及び商店街へ客足が多少向いていると思われる。
○納車に1年以上要し、売上、下取車入庫、入金等が全く読めない。
○買い物スタイルの変化と思われ、駅周辺の人出が減少していると感じている。
○コロナ感染は、落ち着いたところから下げ止まっているが、経済を動かすという方向性から、消費マインドが上向き始めていると感じる。プレミアム商品券が消費のきっかけになっていると感じる。
○電気代、仕入代、輸送費、梱包費等が高騰し、店側の努力だけでは解決の見込みがない。
○8月末までは、売上高、粗利ともにプラス推移していた。9～11月前半は、売上が伸び悩んだが、11月後半になって爆発的な売上向上となり戸惑っている。
○賃上げが毎年行われ、原材料やランニングコストも上がっており、工夫するしかないと感じている。
○材料費等の値上げが少しずつ響いてきて、今後が不安である。
○昨年は県などから協力金等があったが、今期はなく、物品の高騰と人件費増で厳しいと感じる。

サービス業　～業況は小売業に次いで厳しい水準となり、来期も厳しい水準となる見込み～

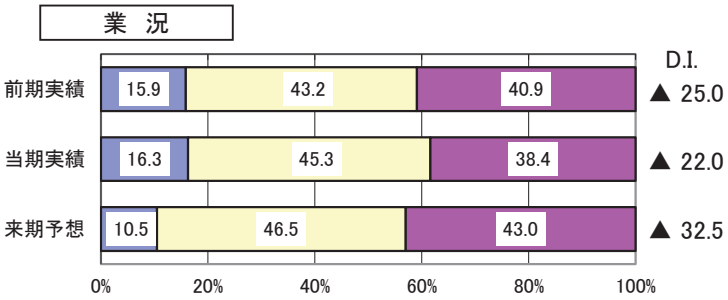
当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

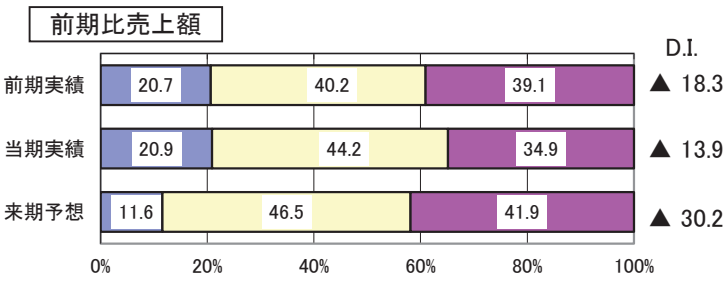
当期の業況判断D.I.は▲22.0と、対前期比3.0ポイントの改善となりましたが、小売業に次いで厳しい水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲24.4）を2.4ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は▲32.5と、10.5ポイントの2桁低下となり、来期も小売業に次いで、厳しい水準の業種となる見込みです。

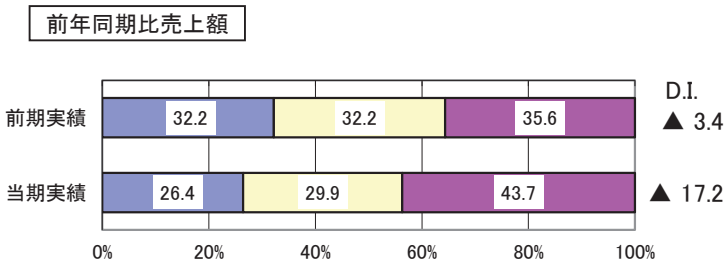


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲13.9と、対前期比4.4ポイントの改善となりましたが、業況同様、小売業に次いで、厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲17.2と、7～9月期から13.8ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲30.2と、16.3ポイントの2桁低下となる見込みです。

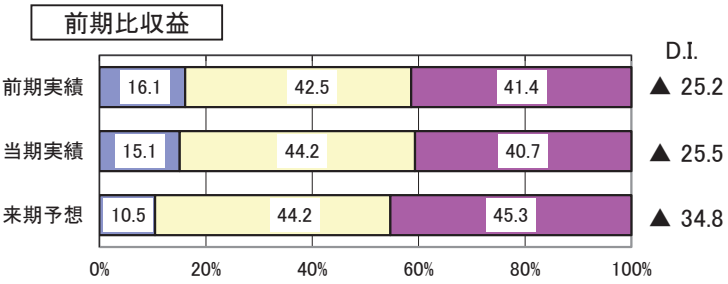


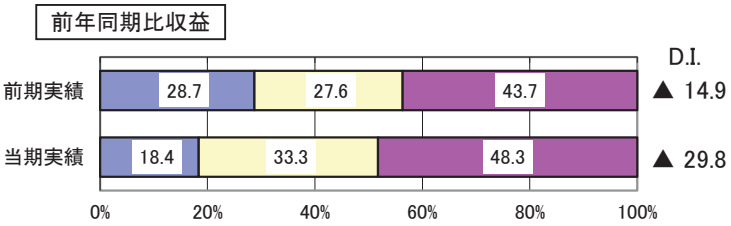


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲25.5と、対前期比0.3ポイントの小幅低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は、▲29.8と、7～9月期から14.9ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲34.8と、9.3ポイントの低下となり、小売業に次いで厳しい水準の業種となる見込みです。

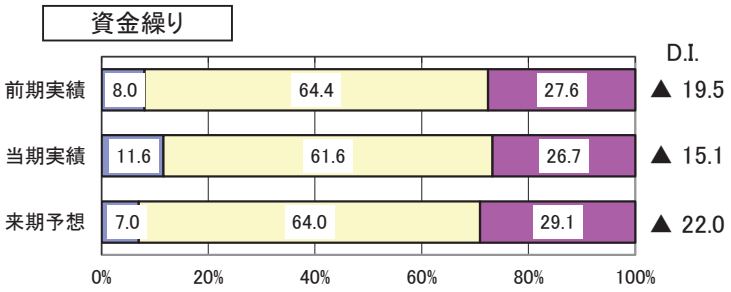




4. 資金繰り

当期 → 予想

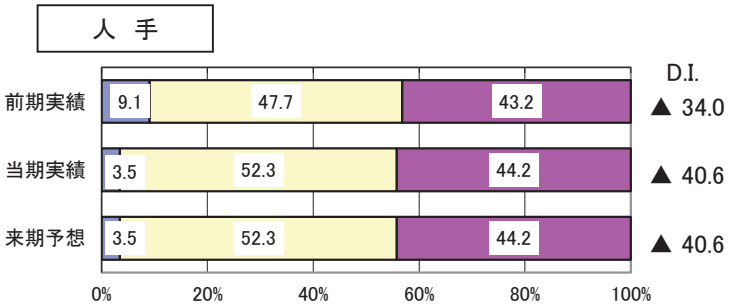
当期の資金繰り判断D.I.は▲15.1と、対前期比4.4ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲22.0と、6.9ポイントの低下となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

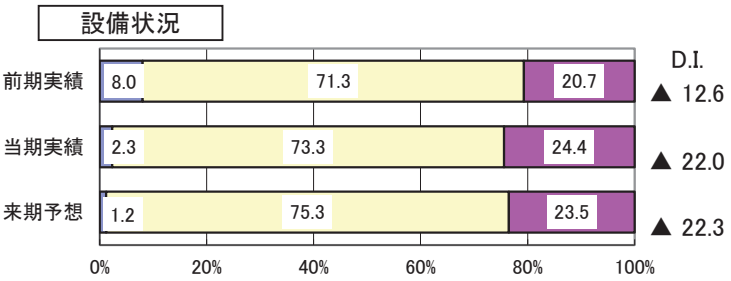
当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲40.6と、対前期比6.6ポイントの低下となり、建設業に次いで厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲40.6と、今期同様、建設業に次いで厳しい水準の業種となる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲22.0と、対前期比9.4ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲22.3と、不足感は小幅に強まる見込みです。

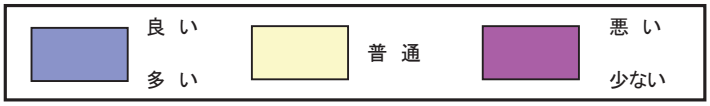


調 査 先 の コ メ ン ト

○第7波以降、従業員の就業意欲の低下が目立ち、退職者が多くでている。また、高齢化による人手不足の状況も続き、大変厳しい状況になっている。
○中小企業の景気が厳しく、資金繰りに絶えず不安を持っている。コロナ前の世の中とは変わってしまい、売上の大幅減少をどのように克服できるか、それまで資金を使うしかないので不安との戦いである。
○業務に使用する事務用品の値上がりが始まり、今後経費に影響が出ると思われる。
○軽油、車両の部品の値上がりで苦しんでいる。
○仕入価格が上がっている。
○コロナ以降、求人が全くといっていい程ない。
○来院患者数が回復傾向にある。
○不動産、建設事業が思いのほか影響がなかった事で、今のところ売上に差がなかったが、今後は、少しずつ下がってくるかもしれないと考えている。

建 設 業 ～業況は改善、来期も改善見込み。雇用は当期、来期とも依然厳しい状況～

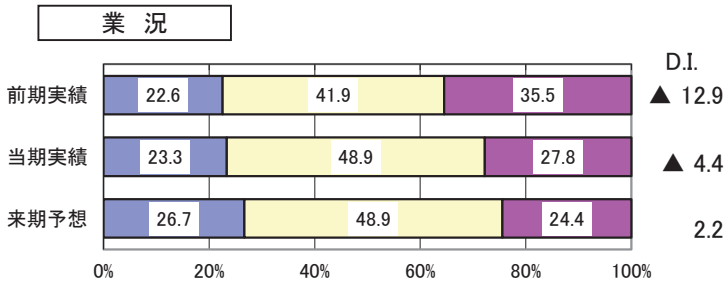
当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

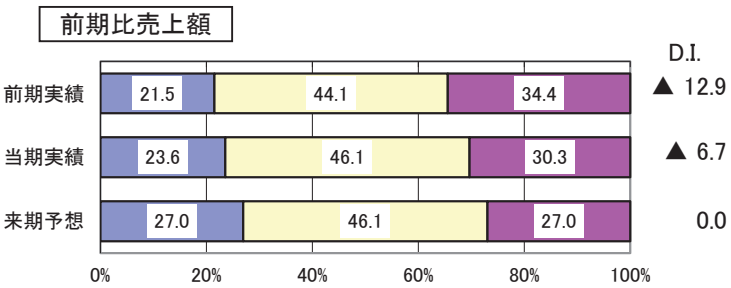
当期の業況判断D.I.は▲4.4と、対前期比8.5ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し（▲5.4）を1.0ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は2.2と、6.6ポイント改善となりプラス水準に転じ、不動産業に次いで、良い水準の業種となる見込みです。

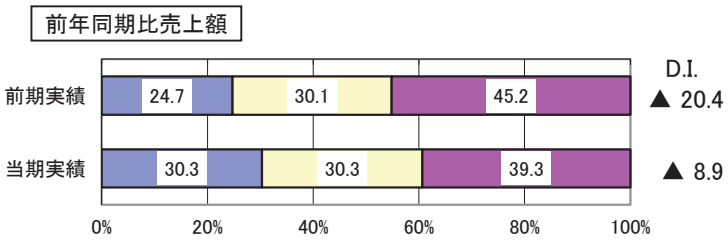


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲6.7と、対前期6.2ポイントの改善なりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲8.9と、7～9月期から11.5ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は0.0と、6.7ポイントの改善となる見込みです。

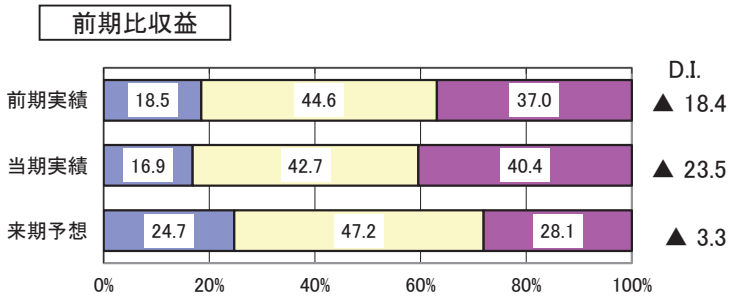


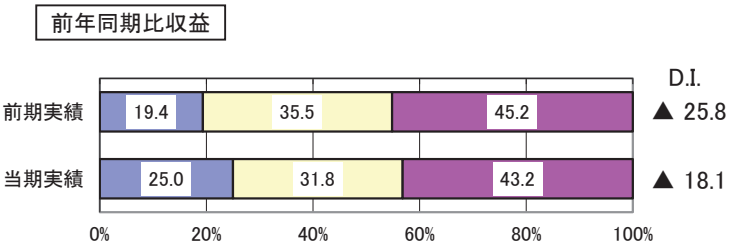


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲23.5と、対前期比5.1ポイントの低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲18.1と、7～9月期から7.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲3.3と、20.2ポイントの大幅な改善となり、最も改善幅が大きな業種となりました。マイナス水準ながらも業況同様、不動産業に次いで、良い水準の業種となる見込みです。

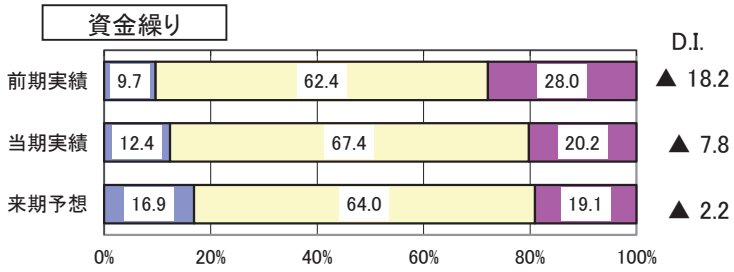




4. 資金繰り

当期 → 予想

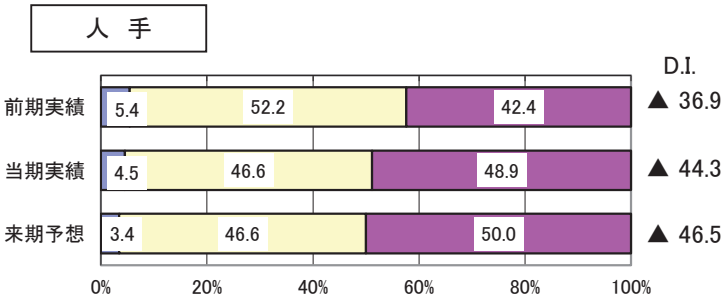
当期の資金繰り判断D.I.は▲7.8と、対前期比10.4ポイントの2桁改善となり、最も改善幅が大きな業種となりました。来期予想については、D.I.は▲2.2と、5.6ポイントの改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

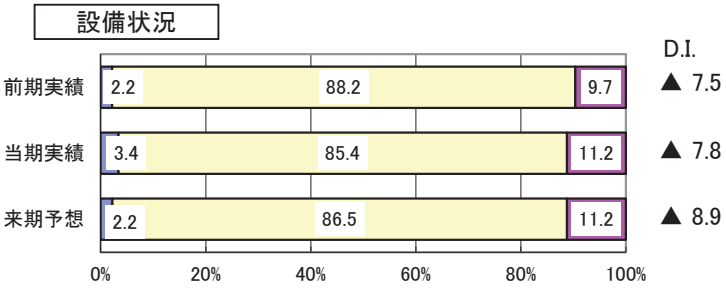
当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲44.3と、対前期比7.4ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲46.5と、2.2ポイントの低下となり、人手不足感は強まり厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲7.8と、対前期比0.3ポイントの小幅低下となり、マイナス水準ながらも、前期に続き最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲8.9と、不足感は小幅に強まる見込みです。

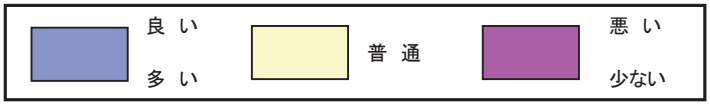


調 査 先 の コメント

○業界的にやや上向きだが、工期の短縮や人員不足により個人の負担が大きく、景気が上向いているという実感がない。
○来期以降の見積もり依頼を受けるが、原材料の高騰により見積修正の必要なケースがある。さらに人手不足により現場作業員の労働時間が増加し、過重労働とならないよう注視している。
○金利の上昇が心配である。
○元請けの受注は良いが、ハウスメーカーからの下請けの仕事は2023年はとても厳しくなる。10%～15%ダウン見込みで人員の振り分けがとても難しい。
○主要資材であるアスファルト合材と燃料が、国際的な供給不足と急激な円安により高騰している。仕入先より相次ぐ値上要請があるが売上に転嫁できず厳しい状況である。
○リモートワークが一般化し郊外型マンションが復活している。しかし、元請けの請負単価が安く、下請け業者が価格転嫁できず売上増、収益減となる傾向がある。
○中国のロックダウンと半導体不足による減産により自動車業界からの受注が減少している。ＥＶ化の工場再編による工場建設予定に期待している。
○資材等の高騰も厳しいが人手不足が問題であり、人手不足に便乗する賃金値上も出てきている。

不動産業　～業況は低下しマイナス水準に転じたが、来期は再びプラス水準となる見込み～

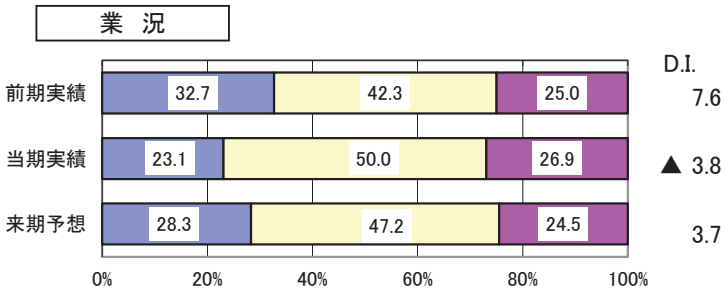
当期実績（2022年 10～ 12月期実績）
来期予想（2023年　1～　3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

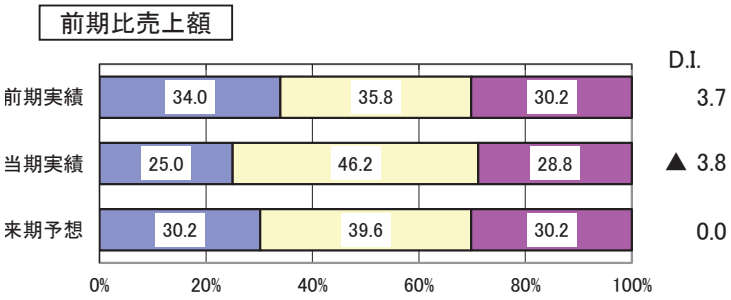
当期の業況判断D.I.は▲3.8と、対前期比11.4ポイントの2桁低下となり、マイナス水準に転じましたが、前回調査時における今期見通し（▲15.6）を11.8ポイントと、大きく上回りました。来期予想ついては、D.I.は3.7と、7.5ポイントの改善となり再びプラス水準に転じ、最も良い水準の業種となる見込みです。

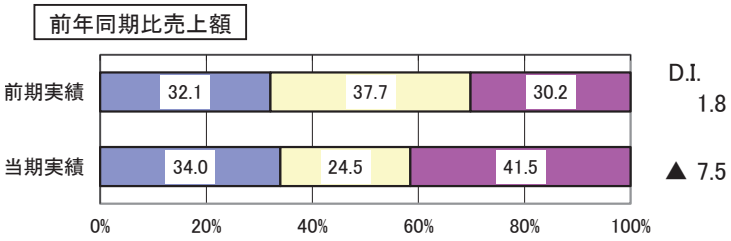


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲3.8と、対前期比7.5ポイントの低下となり、業況同様マイナス水準に転じましたが、卸売業に次いで良い水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲7.5と、7～9月期から9.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は0.0と、3.8ポイントの改善となる見込みです。

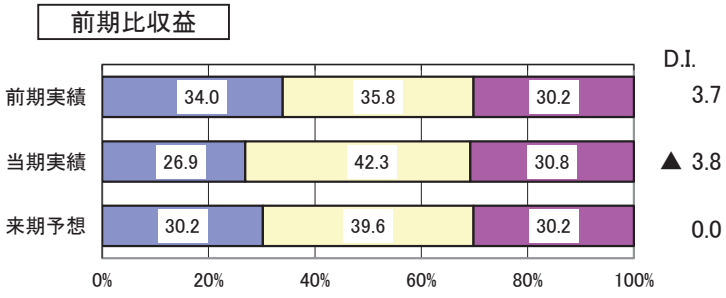


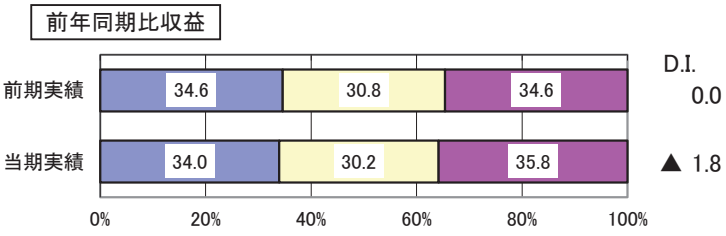


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲3.8と、対前期比7.5ポイント低下し、業況、売上額同様、マイナス水準に転じましたが、卸売業に次いで良い水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲1.8と、7～9月期から1.8ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は0.0と、3.8ポイント改善となり、最も良い水準の業種となる見込みです。

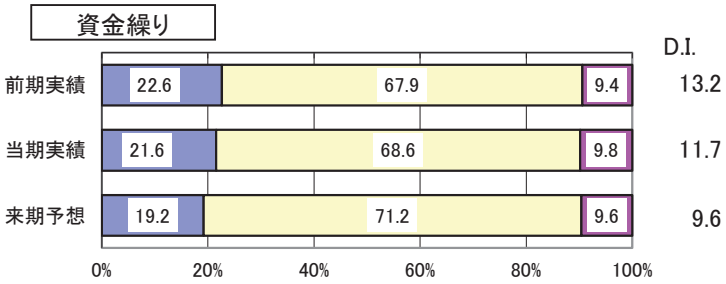




4. 資金繰り

当期 → 予想

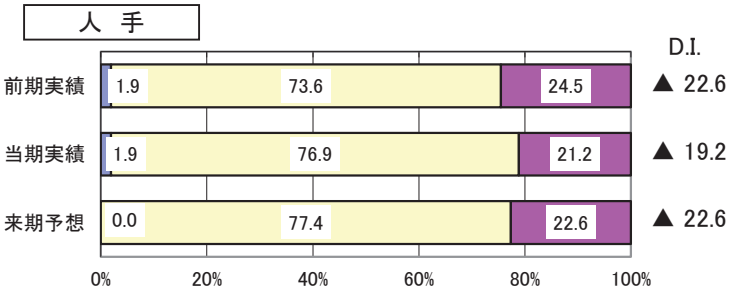
当期の資金繰り判断D.I.は11.7と、対前期比1.5ポイントの低下となりましたが、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は9.6と、2.1ポイントの低下となりますが、プラス水準を維持し、今期実績同様、最も良い水準の業種となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲19.2と、対前期比3.4ポイントの改善となり、マイナス水準ながらも、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.▲22.6と、3.4ポイントの低下となりますが、今期実績同様、最も良い水準の業種となる見込みです。



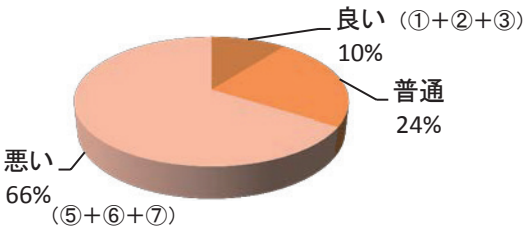
調査先のコメント

○給湯器や照明器具など未だに納期遅延が続いている。
○土地の価格が上昇しており、仕入が大変厳しい状況で注意が必要である。建築費等も昨年と比べ上昇しているが市場は活発に動いている。
○ロシア、ウクライナの緊張、大幅な円安により原材料が高騰し建物価格は原価割れの状況である。令和5年3月期は今期と横ばいの数字が確保できているが、それ以降は不透明である。
○仕入、原材料価格、資材、設備機器等の更なる値上が相次ぎ、収益の確保が極めて難しい。コストを販売価格に転嫁することによる販売不振の影響も懸念される。
○コロナ感染の影響で商品仕入が厳しくなると思う。
○少し物件の動きが鈍くなっている。
○物件の仕入価格が上昇し、リフォーム代、建築工事代も高騰している。販売価格が上昇し、消費者の購入マインドが上がっておらずローンの審査も厳しい。
○今年末は、コロナ需要の恩恵を受け活気があった昨年同様のニーズとコスト上昇前の駆け込み受注で売買が盛んに行われた印象である。来春にかけ不動産相場が上昇し、資材高騰・不足等により不動産取引が沈静化し、投資目的の取引への変化を懸念している。当社は、新規物件の仕入ができず、お客様の希望に添った宅地の供給ができていないといったジレンマをかかえている。
○土地代が高値止まりで物件が減少し、建築は資材高騰で利益率が低下し、更に景気が低迷すると思われる。来年度の景気対策に備え、事業内容の見直しを行い、事業内容の分散、拡大による売上、利益の確保対策を実施中である。
○金利上昇が最大の懸念事項で、特に住宅ローン金利の動向次第で業況が決定すると思われる。
○高齢者のお客様が増えた。

特別調査 ・・・・・・「2023年（令和5年）の経営見通し」

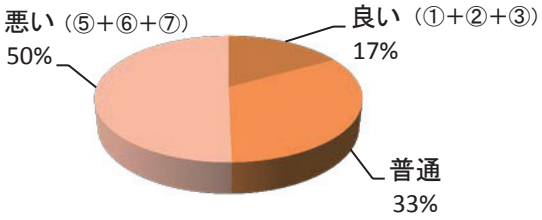
1. 御社では、2023年の日本の景気をどのように見通していますか。
～2023年の業況D.I.は▲55.5と、昨年（▲32.1）と比較すると、23.4ポイントの大幅低下となった～

2023年の日本の景気の見通しについては、①「非常に良い」が0%、②「良い」が1%、③「やや良い」が9%で、景気が良いと見通している回答が10%を占めた。一方、⑤「やや悪い」が42%、⑥「悪い」が22%、⑦「非常に悪い」が2%で、景気が悪いと見通している回答が66%を占めた。この結果、業況D. I. は▲55. 5となった。



2.御社では、2023年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。
～2023年の自社の業況D.I.は▲33.5と、昨年（▲24.6）と比較すると、8.9ポイントの低下となった～

2023年の自社の業況（景気）については、①「非常に良い」が0%、②「良い」が4%、③「やや良い」が13%で、自社の業況を良いと見通している回答が17%を占めた。一方、⑤「やや悪い」が33%、⑥「悪い」が15%、⑦「非常に悪い」が2%で、自社の業況を悪いと見通している回答が50%を占めた。この結果、業況D. I. は▲33. 5となった。

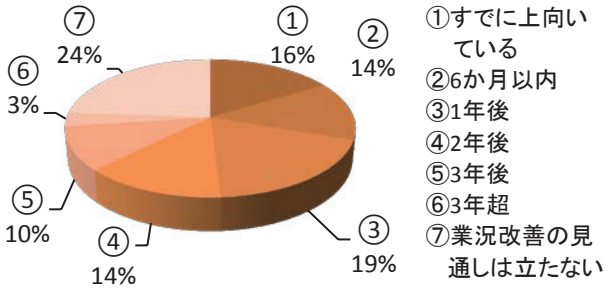


3.2023年の御社の売上額の伸び率は、2022年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

2022年と比較した2023年の売上額の伸び率については、「10%未満の増加」～「30%以上の増加」まで合計すると、増加するとの回答は計32%を占めた。一方、「10%未満の減少」～「30%以上の減少」まで合計すると、減少するとの回答は計37%を占めた。減少するとの回答がやや多い結果となった。

4.御社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。
～49%が1年以内に業況が上向くと予想。昨年と比較すると10%割合が減少した～

自社の業況が上向く転換点の時期については、①「すでに上向いている」が16%、②「6か月以内」が14%、③「1年後」が19%となり、1年以内に上向くとの回答が49%を占めた。一方、⑦「業況改善の見通しは立たない」との回答も24%あり、昨年より約7%割合が増えた。



5.2023年の事業環境を展望したとき、御社にとっての経営リスクは何ですか。

経営リスクについては、「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が352社と最も多く、次いで「原油・天然ガス等のエネルギー価格高騰」が226社、「コロナなど感染症の感染再拡大」が159社と続いた。価格の高騰を経営リスクとする回答が半数近くあった。また、「円安・インフレの加速」との回答も110社と比較的多かった。

（最大3つまで複数回答）

お客さま景況インタビュー

インタビュー日付
2022 年 11 月 21 日

株式会社　ダイイチ

～働く人たちをスター選手に～

代　　表　　者	取締役社長 花本　高志
本 社 所 在 地	横浜市中区宮川町 3-89
創　　業	昭和 28 年
事　業　内　容	ユニフォーム製造・販売業

昭和 28 年の創業から 70 年に渡り、老舗ユニフォーム制作会社として成長を続けてきた同社の経営者のお話を聞かせて頂きました。

Ⅰ.ユニフォームへの“こだわり”と“強み”

当社では、ユニフォームで人が輝く環境（労働環境、経営環境、衛生環境、自然環境）を提供し、人々が輝き、その地域・社会がより一層発展していくことを目指しています。

当社のユニフォームへのこだわりは、ユニフォームが与える効果についてです。ユニフォームを着用することでデザイン性や機能性に優れ、「毎日着たい」という思いや、「応援したい」、「好きだ」と感じてもらえるような「憧れの存在」としての効果を最大限発揮できるよう心がけています。ユニフォームは、企業を印象付けるものであり、着用することで企業の一体感の向上や業務の効率化を図れます。

強みは、商品の品質管理の徹底です。当社では、同じ品質の商品を供給し、着心地の良さや耐久性に優れた品質管理を行っています。生地やデザイン、色味等変化を加えることも大切ですが、当社では強みを活かし、同じ品質にこだわった商品の販売に努めています。

Ⅱ.「ＧＯ職場スターズ（ゴーショクバスターズ）」

「ＧＯ職場スターズ」は当社がユニフォームを着用する全ての人をスター選手にという思いから企業のスタッフにスポットを当てた企画です。最高に輝いている瞬間を撮影し、ユニフォームを幅広い業種へ普及することで、職場の魅力とスタッフのモチベーションが向上し、労働衛生を高める取組みに繋がると考えています。「ＧＯ職場スターズ」は、様々な業種のお客様に撮影を協力して頂いており、お客様からもリクルート効果、企業ブランディングに効果が期待できそうというお声も頂いております。

「ＧＯ職場スターズ」　株式会社ダイイチのスタッフ

Ⅲ.景況について

急激な円安による影響を受けています。仕入先からの値上げにより、当社でもお客様に値上げをお願いせざる得ない状況です。今後は仕入だけではなく、当社独自の商品開発にも強化していきたいと思います。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ 2、3 年は接客業のお客様からの仕事が減ってしまったと感じています。業種により差がありますが、景況に関してはまだまだ不透明だと感じます。

Ⅳ.今後の取り組み

今後は、当社独自の商品開発の強化を行い、安定したユニフォームの供給をしていきます。また、これからも「憧れの存在」となる企業のスタッフを増やし、ユニフォームの魅力を発信していきたいと思います。「ダイイチ」だからできるという、お客様の想いをカタチにし、お客様のニーズに寄り添った製造・販売に努めていきます。

これからも
ユニフォームを通じて、
人や企業、地域を輝かせ
ていきます。

取締役社長　花本　高志

かながわ信用金庫片瀬支店、原宿支店がリニューアルオープンしました。皆様のご来店を心からお待ちしております。

片瀬支店

・リニューアルオープン日
令和4年11月21日（月）

・住所
藤沢市片瀬3－17－29

・TEL　0466-23-5412

・太陽光発電等を設置した環境にやさしい店舗。

原宿支店

・リニューアルオープン日
令和4年12月12日（月）

・住所
横浜市戸塚区原宿3－8－35

・TEL　045-851-2660

・神奈川県産の木材を店内のインテリアに利用。

本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

発　行　かながわ信用金庫
住　所　〒238-0004　横須賀市小川町7番地
TEL　046－826－1515（平日9:00～17:00）
編　集　株式会社　かなしんトータルサービス
住　所　〒235-0023　横浜市磯子区森1丁目10番10号
TEL　045－263－6363（平日9:00～17:00）

かながわ信用金庫 かなしん